フィンランドとスウェーデンの「福祉と保育を学ぶ」研修報告

2016/8　佐藤　由華

＜フィンランド　視察先＞
- **リーヤン保育園**
- **グランクラ保健センター（ネウボラ）**
- **グランクラ基礎学校**
- **キベラホスピタル（ネウボラ）**

＜スウェーデン　視察先＞
- **保育園**
- **スウェーデン基礎学校**
- **ムッレボーイ園**

はじめに…

◎ネウボラ（neuvola）とは…

・アドバイス（neubo）の場という意味で妊娠期から就学前までの子供の健やかな成長・発達の支援、母親、父親、きょうだい、家族全体の心身の健康サポートも目的としている。

・出産・子ども・家庭ネウボラがそれぞれある。

・戦後、核家族が増えたことにより、安心して子どもを産んで育てられるよう、安心できる生活を届けようと、小児科のDr.アールボ・ユッコによってはじめられた活動である。

・妊娠の予兆がある時点でネウボラへ健診に行く。

・妊娠期間中は6～11回、出産後も子供が小学校に入学するまで定期的に通い保健師や助産師といったプロからアドバイスをもらう。

・健診、相談はすべて無料。

・医師の診察は3回。

・家庭訪問も行っている。

・ネウボラにすべて通うと育児パッケージ（ベビーベッド代わりにもなるほどの大きな箱に育児用品が入っているもの）がもらえる。または、現金が支給されるが、現金よりも育児パッケージの方が金額にするとかなり多いため、育児パッケージを希望する人がほとんどである。

ネウボラで働いているスタッフは、保健師、助産師、特別看護師の資格を持つ。

特別看護師とは、通常3年半のところ、4年間学び、予防するというプログラムを学んでいる。

・子どもを出産して初めて、自分たちが支払ってきた税金が循環していると感じる人も多く、税金が高くても医療費、教育費が無料になるということで不満を持つ人は少ないという。

（　税金　車などのいわゆる贅沢品といわれるものは、24%、食料品、日用品などは14%　）

・0～5歳までは誰でも保育園に通える。6歳でプリスクール、7歳で小学校入学。プリスクールから大学まではすべて無償。

＜ムッレ保育とは＞

・ムッレとは「土」という意味があり、森の案内人とされ、自然を大切にしていくことで、森の妖精、「ムッレさん」に会えるとされている。そのため、自然の中にあるのも、生き物は持ち帰らないように子どもたちには伝え、葉っぱなどは、1枚だけとされている。

・ムッレ保育を行っている園は、活動のほとんどを戸外で過ごし、天候に関係なく、森の中で遊び、自然の大切さを伝えていく。

・年に一度くらいで子どもたちはムッレさんに会えることになっていて、ムッレさんには自治会の人や議員など、様々な人がムッレさんに扮して子どもたちに自然の大切さを伝えていく。

・五感を使って自然感覚を身につけようとされている。

＜人を育てるステップ＞

・自然の中で安心して快適に過ごせる。
・自然を楽しむ
・自然を見て観察する。
・全体のつながりの関係を理解する。
・人間が自然に負荷を与えていることを知る。
・行動して社会に貢献する。

「森のムッレ教室」に登場する森の妖精ムッレは　”生きものを思いやり、自然を守る”　という大切なメッセージを子どもたちに伝えます。更に、ファンタジーに溢れたムッレが登場することにより、幼児期の子ども特有の資質を効果的に引き出すことができるとされています。

＜野外活動の子どもへの効果＞

健康な身体をつくる
運動神経が育つ
自信を持って生きる力を育む
社会性・協調性が育つ
脳の発達を促す
ストレスを解消する
想像力・創造力を育む
集中力が増す
環境意識が育つ

フィンランドの保育園について

リーヤン保育園　35 名前後の園児

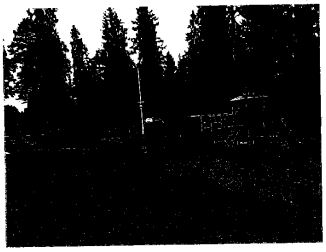
開園時間

7:00～17:00

保育園に入るのに必要な条件はない。働いていなくても入れる。収入によって、保育料は違う。

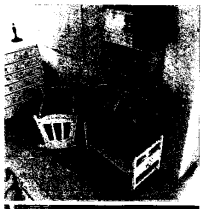
0.1.2 歳は建物が別になっている。

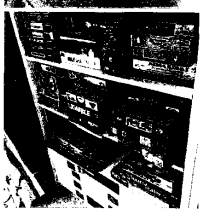
大きな園でも 100 名くらい。

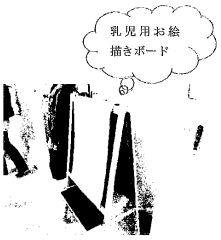


保育園の壁にはひとりひとりの家族の写真フレームが飾られている。毎年新学期に作り、その写真を見て子どもたちが安心して過ごせるようにとの考えから始まった。

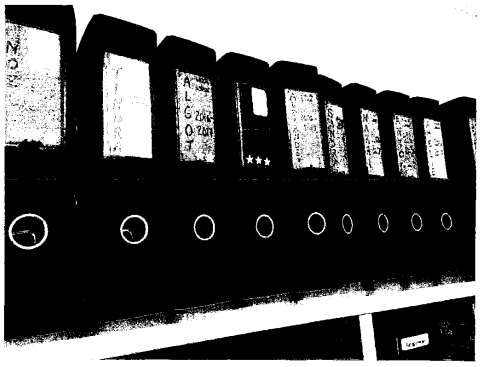
保育室は家庭規模で様々なコーナーに分かれている。どこへ行って遊んでもよいことになっている。





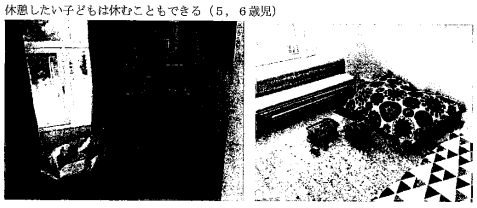


子どもたちの作品はこのファイルに閉じられ、家庭へ贈られる。



声をはかるもの。これを見て子どもたちは声の出し方を考えるようになる。

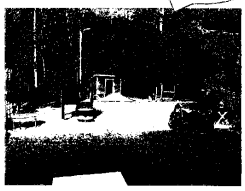
休憩したい子どもは休むこともできる（5，6歳児）

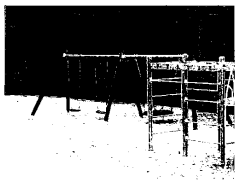


昼寝をしたい子どもは自分で行ってねむっている（3，4歳児）

園庭遊具

乳児用遊具





週に2，3日は近くの森へ行ってすごす。

スウェーデン
ブレニングベーゲン園（ムッレ保育）
5年前にスタートした保育園。
森に近い場所に保育園を建て、天候に関わらず午前中は外で遊んでいる。
この保育園は、現在は64名の園児、13名の職員
1～5歳児を、4グループに分けて活動している。

サイコロをふって、出た目のミッションを行なう。
1.自分の手より長い木の枝、短い木の枝を探すというミッション。長い短いを自然の中で学ぶ。
2.太い木の周りを3回まわる
3.ヘビのように動く
4.自分より背の低い人の前に立ちましょうなど、様々なミッションを行っていく。
やらない子どもはやらなくてもよい。

冬場は水をまいて、凍らせて滑って遊ぶ。
保護者から怪我などのクレームなどはないか？の質問に、クレームはほとんどなく、身体を動かして危険を学び、体得していく、という考え。外の方がケンカする材料が少ない。
最近は、紫外線の問題がでてきている。
子どもの皮膚ガンが増えているため、日焼け止めは必ず使用している。

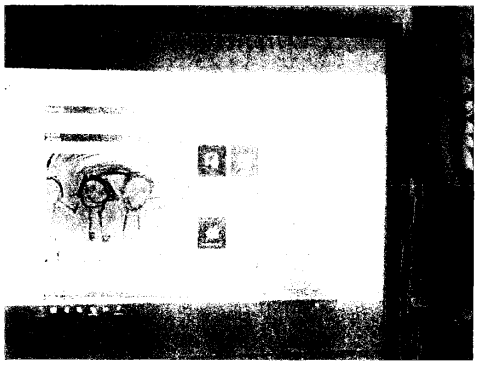
保育室

ワンフロアーを幾つかに分けてコーナーを作っている。

個人ロッカー（ロッカーのみの部屋）

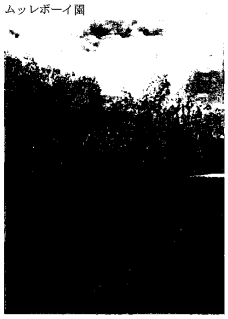
スマートクラス
保護者に参画してもらうことを考えて導入している。

例
絵を描く
カメラの下に置く
手を置いて認識、保存。
個人のファイルに入り、母親の携帯に送られる。
迎えに来る前に、子どもが何をしているのかがわかることもある。



ドキュメンテーションで保護者に伝え、学びを保護者と追っていく事で、保護者が保育参画しやすいようにと考えている。
2013年からシステム化している。
子どもや保護者が安心して保育園に来ることができるようにしていく為。
スウェーデンでは、女性が働くようになってから教育、学びに力を入れ、保育園にも投資してくれるようになった。

ムッレボーイ園



遊び場の森

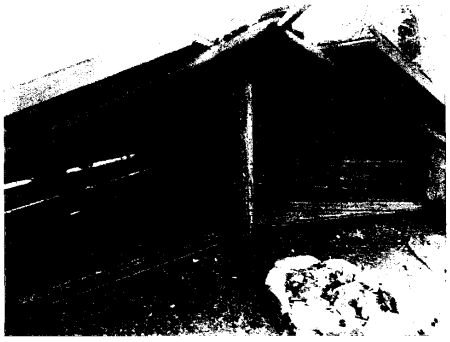
リュックに水筒、おやつを持って出かける。
昼食は保育者がもっていき、週3日、ほぼ、一日を森の中で過ごす。

園庭で遊ぶ日、というのもある。

園庭

ホースが土の中に埋めてあり、水を流して小川を作る
（左写真）

高い松の木にロープが結ばれていたり、木と木を組み合わせて小屋や遊具などが作ってある。（下写真）



この場所で年2回、保護者懇談会が行われている。
参加者でスープなどを作って食べながら意見交換をする場となっている。
保護者は全員参加する。
子どもは35名在園。

保育室

造形室

日本との大きな違いはあまりないと感じる。
産休が、土日を除く 210 日間
父親だけが 3 ヶ月間育休をとると、国から補助金のようなものがもらえる。

保育料は 0～290 ユーロだが、よい方の園になると 2,000 ユーロかかるところもある。
しかし、差額の保育料は国（税金）が負担している。

保育園不足、保育士不足はスウェーデン、フィンランドも同じ。
開園時間、人数的なこと、家庭規模の保育室というのが違いとしてあげれる。

森の中に土地を買って保育園をつくっている。

＜感想＞

・ネウボラという言葉もムッレという言葉も初めて聞きました。研修に行く前に多少調べてから、今回の研修に参加させて頂きました。参加されている方々は、本場のムッレ保育が見たいということで集まっり、実際に日本でムッレ保育を行っている園から参加されている方もいました。

日本でいう里山保育のような感じを受けましたが、ほとんどを森の中で過ごし、その自然物を用いて、数、長さ、大きい、小さいなどを教えていくことや、自然の中で身体を動かし危険を体得していく、戸外の方が子ども同士のけんかが少ないなど様々なメリットがあるとのことでした。日本とは逆の発想で、保育園を森にするのではなく、森を探して、そこに保育園を建てるのだと知りました。
その為、保育園はかなり中心部より離れた場所にありました。園の違いもありますが、けがや保育内容対するクレームなどはほとんどないと聞き、やはり、日本との保育に対する保護者の理解の違いがあるのかなと感じました。

日本で保育に携わって行く中で、やはりその場所で、その環境でできることを見つけていくことが大切で、こどもや保護者のニーズに合った保育をしていくことが重要だと思います。どの国で育っても子どもは宝物であるということには変わりがなく、その乳幼児期に関わる重要な環境のひとつに私たち保育士がいるということを忘れることなく、日々、子どもたちと関わっていきたいと改めて感じました。

一生忘れることのできない研修に参加させて頂き、ありがとうございました。

EMMA
EMIL